

## 精神遅滞児と自閉症児における各伝達機能の発達的特徴

李 玄 玉\*

### 要 旨

自閉症児の言語障害の特徴がより解明されるためには、コミュニケーション機能についての検討が必要であり、特に、自閉症児に特有な伝達機能の偏りがどのような原因を背景にしながら生じてくるのか、その検討も必要であると思われる。

また、子どもにおける相互作用的伝達機能の評価は、伝達機能の出現頻度のみでなく、言語発達検査による発達段階を尺度としても可能であろうと考えられる。

それで、本研究では健常乳幼児、精神遅滞児および自閉症児における各伝達機能の発達的特徴について分析・検討した。

その結果、健常乳幼児においては生後6カ月で物の要求、行為の要求、抗議などの環境的伝達機能と、社会的伝達機能のうち友好表示が出現していることが示された。その後、社会的伝達機能としてはコメントが加わり、さらに後に情報の要求が出現していることが示唆された。特に、本研究において情報の要求は、コメントと同時期に出現する機能、あるいはその上に立ったさらに高次の機能であるように示された。

キーワード：自閉症児、言語発達、語用論、伝達機能、

### I はじめに

近年、言語発達研究では言語が対人的文脈の中で使用されてはじめて意味をもつものであることを主張する語用論的観点が入り込んでいる。

一方、言語障害児については、Snyder, L. (1978) が一語発話期にある言語発達遅滞児には意図的伝達の困難さがあり、発話が見られてもそれを適切に伝達場面で使用できないとしている。また、Rapin, I & Allen, D. A. (1983) は、発達性言語障害児の分類を行う中で、自閉症状を持つもの以外に語用論的障害のある症状群を上げ、流暢な発話があっても伝達的でなく、談話に対する理解の乏しいもの等をあげてい

る。さらに、大井(1983)は、このようなコミュニケーション場面における対人的事態の文脈を理解する能力の障害を想定し、事例研究を通してその能力形成を目的とするアプローチの必要性を示した。

Halliday (1975) や Dore (1975)、Bruner (1978)、Bates (1979) らは、語用論の観点から乳幼児期の言語発達を考察し、どのような文脈や場面でどのような語を使用するかを調べることで乳児の意図する意味を把握しようとした。そして、Wetherby and Prutting (1984)、佐竹・木原・小林(1987) は、言語発達が初期の段階にある自閉症児のコミュニケーション行動を自然場面において分析し、伝達機能の偏りを明

\* 九州看護福祉大学 看護福祉学部 社会福祉学科

らかにした。

また、綿巻・西村・佐藤(1984)は、自閉症児の言語障害を解明するためには、コミュニケーション機能の偏りから自閉症児をいくつかのタイプに分類し、各タイプに属する子どもの言語指導を検討する必要があることを指摘している。

黒田(1987)は、話しことばを待たない重度自閉症児1名の前言語段階における伝達機能を5年にわたって分析し、個々の伝達機能の出現経過と機能間の関係について考察を加えている。佐竹・小林(1989)も、自閉症児の伝達機能の発達過程の特徴について、乳幼児との比較を通しながら分析を行うとともに、やりとり行動の形成と伝達機能を持つ語の習得について検討を行っている。

このように、自閉症児の言語障害の特徴がより解明されるためには、コミュニケーション機能における関係が検討される必要があると考えられる。また、自閉症児に特有な伝達機能の偏りがどのような原因を背景にしながら生じてくるのか、その検討も必要とされよう。

この語用論的伝達機能の枠組みは、自閉症児の大人との相互作用における言語行動の発達を評価するうえで有効であることが示唆されている(Wetherby and Prutting,1984;佐竹・小林・木原,1987)。

特に、佐竹・小林・木原(1987)は、Wetherby and Prutting(1984)のような方法による分析において、高頻度で出現している伝達機能は高次化されやすく、低頻度でしか出現しない伝達機能は高次化されにくいと述べている。また、社会的結果事象を導く相互作用の伝達機能において、健常幼児は友好表示、差し出し、社会的ルーチンの要求、情報の要求、コメント、許可の要求の順に、階層的に発達することを示唆した。したがって、子どもにおける相互作用の伝達機能の評価は、伝達機能の出現頻度のみでなく、言語発達検査による発達段階を尺度としても可能であろうと考えられる。

それで、本研究では健常乳幼児、精神遅滞児および自閉症児における各伝達機能の発達の特徴について分析・検討する。

## II 研究の方法

### 1 対象児

生活年齢が8カ月～3歳の健常児5名と、ことばの遅れを主訴として2000年10月全北児童発達研究センターに来談した精神遅滞児5名、そして、小林(1980)の診断基準により自閉症と診断された自閉症児5名を対象にした。表1にそれぞれの対象児のプロフィールを示した。

表1 対象児のプロフィール

対象児	性別	生活年齢	精神年齢	
健常児群	A児	女	0:08	
	B児	女	1:03	
	C児	男	1:04	
	D児	女	2:04	
	E児	男	3:00	
精神遅滞児群	F児	女	3:10	1:05
	G児	男	4:08	1:10
	H児	男	5:08	2:11
	I児	女	5:10	3:03
	J児	女	6:06	3:00
自閉症児群	K児	男	4:05	2:01
	L児	男	5:03	1:10
	M児	女	5:06	1:08
	N児	男	7:01	2:06
	O児	女	7:03	3:04

## 2 手続き

韓国版「ことばのようす」(1990)を用いて、対象児の母親に各項目の該当欄に〇をつけてもらった。次に、伝達行動の発達のプロフィール(表2)を用いて、当該項目の回答から、各児の伝達行動のプロフィールを示した。

## III 結果

まず、健常児における伝達行動の発達のプロフィール(図.1)をみると、A児(8カ月)は、環境的伝達機能(物の要求、行為の要求、抗議)から友好表示まで出現している。しかし、コメント、情報の要求の伝達行動はまだ出ていない。

B児(1歳3カ月)とC児(1歳4カ月)では、コメント、情報の要求までが出現している。また、プロフィールのラインが水平に近づいている。

D児(2歳4カ月)とE児(3歳)においては、両方とも伝達行動のプロフィールのラインの起伏が見られる。しかしながら、環境的伝達機能と社会的伝達機能がバランスを保っており、特に、E児はD児に比べて全体的に上昇していることが見られる。

そして、精神遅滞児における伝達行動の発達のプロフィール(図.2)をみると、F児(3歳10カ月)は、まだ情報の要求は出現していないが、環境的伝達機能に比べて社会的伝達機能が高く出ている。

G児(4歳8カ月)とH児(5歳8カ月)では、社会的伝達機能もよく発達しており、特に、コメント、情報の要求などが非常に高く出現している。

I児(5歳10カ月)、J児(6歳6カ月)では、自発的相互作用伝達機能としての環境的伝達機能と社会的伝達機能、そして、他発的相互作用伝達機能としての応答、模倣などの伝達行動が同様の水準で発達していることが

見られる。

これらの結果からみると、精神遅滞児は全体的な発達レベルは低いのであるが、伝達行動の発達においては、環境的伝達機能と社会的伝達機能がバランスよく発達していることがわかる。

次に、自閉症児における伝達行動の発達のプロフィールは、図.3に示した。

K児(4歳5カ月)では、環境的伝達機能(物の要求、行為の要求、抗議)と他発的相互作用伝達機能としての応答、模倣などが比較的よく発達している。しかし、社会的伝達機能においては、友好表示が出現しているのみ、コメントと情報の要求は出現していない。

L児(5歳3カ月)では、社会的伝達機能の中で友好表示は出現しているが、コメントと情報の要求は出ていない。また、環境的伝達機能の中では行為の要求が非常に高く出ている。M児(5歳6カ月)においては、環境的伝達機能は発達しているが、その他の社会的伝達機能と模倣などの伝達行動が全く出ていない。N児(7歳1カ月)とO児(7歳3カ月)では、コメントや情報の要求が出現しており、社会的伝達機能もかなり発達している。

以上の結果からみると、自閉症児の伝達行動においては、環境的伝達機能に比べて社会的伝達機能が顕著に遅滞していることがわかる。また、物の要求、行為の要求などの伝達機能が非常に高いという傾向が見られた。

## IV 考察及び結語

Wetherby and Prutting(1984)は、物の要求、行為の要求、抗議を環境的結果事象を導く機能(物理的必要性を満たした機能)とし、コメント、差し出し、友好表示、情報の要求、許可の要求、社会的ルーチンの要求を社会的結果事象を導く機能(大人を巻き込んで子ども自身に注意を向けさせる機能)とした。そして

彼らは、前言語段階から一語発話段階の健常児においては、環境的結果事象を導く機能も社会的結果事象を導く機能もともに出現しているが、自閉症児においては社会的結果事象を導く機能がほとんど見られないという事実を明らかにした。

そこで、Wetherby and Prutting(1984)、佐竹・木原・小林(1987)の用いた方法は、ビデオに録画された対象児と大人との相互作用場面を分析し、各伝達機能の出現頻度の割合を算出する方法であった。ところが、伝達機能の特徴は出現頻度のみではなく、発達段階を尺度としても評価することが可能ではないかと考えられ、本研究では、対象児の各伝達機能を、発達段階の尺度として評価することを試みた。

その結果、健常乳幼児においては生後6カ月で物の要求、行為の要求、抗議などの環境的伝達機能と、社会的伝達機能のうち友好表示が出現していることが示された。その後、社会的伝達機能としてはコメントが加わり、さらに後に情報の要求が出現していることが示唆された。特に、本研究において情報の要求は、コメントと同時期に出現する機能、あるいはその上に立ったさらに高次の機能であるように示された。

一方、精神遅滞児においては、全体的な発達レベルは低いですが、環境的伝達機能と社会的伝達機能がバランスよく発達している。その伝達行動の発達のプロフィールにおいても健常乳幼児のそれと似ている。つまり、精神遅滞児は「人-物」の関係(山田,1987)に遅れが

あるために、伝達機能の全体的レベルが低くなっているが、「人-他者」の関係はよく形成されていると考えられる。

自閉症児では、全体的な発達レベルも低いのであるが、特に、社会的伝達機能が環境的伝達機能に比べて顕著に遅滞しているという特徴が認められた。これは、自閉症児の「人-他者」の関係(山田,1986)の形成に重大な遅れを持つということと関連性があると考えられる。

また、本研究の発達尺度による伝達機能プロフィールにおいては、Wetherby and Prutting(1984)、佐竹・木原・小林(1987)が、出現頻度によって明らかにした自閉症児における伝達機能プロフィールの特徴と同様の特徴が認められた。

すなわち、自閉症児においては環境的結果事象を導く伝達機能はよく発達するが、社会的結果事象を導く伝達機能には遅れがあるという特徴が認められた。

以上のように、本研究の伝達行動項目のチェックを行うことによって、健常児および精神遅滞児と自閉症児との伝達の特徴の差をわかることができた。

したがって、子どもの伝達機能のようすを確認することによって、その子どもの言語指導における知見を得ることが可能であると考えられる。ただ、今回の研究で少なかった事例数を増やしていくことが必要であり、さらに年齢別の分析を加えることによってより信頼性の高い研究成果が得られるであろう。

表 2 伝達行動のチェック項目

「ことばのようす」(1988)

物の要求

- 302. 欲求(空腹、眠い時)によって異なった泣き方をする。
- 802. 手の届かないおもちゃに向かって手を伸ばしつづける。
- 801. 要求があるとき(何かを取って欲しい時など)、声を出して大人の注意を引く。
- 805. 指さしや身振りを伴い、声を出し、ほしいものを手に入れようとする。
- 804. 自分の要求するもの、ほしいものがはっきりしてきて、目的の物を指さす。
- 803. 「マンマ」といって食事の催促する。
- 806. ただ物の名前を言うだけでなく、二語文以上で要求する。
- 1018. 自分が使いたいものを他の人が使っているとき、「かして」と言う。

行為の要求

- 1107. よく抱いてくれる人を見ると、自分の身体を乗り出して、抱いてもらいたがる。
- 808. おしっこをした後で「チーチ」と言って知らせる。
- 807. 大人のところに本をもってきて、しきりに読めとせがむ。
- 810. おしっこ前にだいたい教える。
- 809. 大人に鉛筆をにぎらせて、「ワンワン」「ブーブー」等を描けとせがむ。
- 1015. 他に子に「～しようか」といって誘いをかける。

抗議

- 504. 遊んでいるおもちゃを取り上げられると反抗したり、泣いたり、怒ったりする。
- 508. 大好きな遊びを途中でやめさせられると泣く。
- 505. 水などをひとりて飲むといっただきかない。手伝うと怒る。
- 1113. 他の子どもが母親の膝(ひざ)に上がると、怒って押しのけたりする。
- 1007. 不定の「ちがう」を使う。

友好表示

- 303. 声のやり取りを楽しむ(子どもの声に応じて話しかけるとまた返してくる)。
- 304. 人の顔を見て声を出し「オククーン、オククーン」などと話す。
- 318. 母親に向かって「ママ」と呼びかけるなど、人に呼びかける。
- 305. いろいろな声を出して人を呼ぶ。
- 313. 話しかけるような調子でわけのわからないことばを使い、しゃべりかける。
- 1109. 大人に向かっておもちゃを投げたり、イナイイナイパー等の遊びを自分で始めて大人を誘う。
- 1008. 「おはよう」「さようなら」「ありがとう」などを適切に用いる。

コメント

- 1001. よく知っている場所にくると、指さしたり、声を出してりして教える(自分の家の前、お菓子のある戸棚の前などで)。
- 317. 積木を積み上げた時とか、何かおもしろいものを見つけたときなど、大人の方を見て大声を出して知らせたりする。
- 1006. 「きれいね」「おいしいね」という表現ができる。
- 1020. 見聞きしたことを母親や先生に話す。

情報の要求

- 1003. 何かの事物を指さして声を出したりして、問いかけるように大人の方を見る。
- 705. いちいち「なあに」と聞く。
- 708. 疑問詞(どうして)「どうする」「どれ」など)を使える。
- 1019. 聞いていた話が途切れそうになると「そうしてどうしたの」などと催促する。

応答

- 101. 大声や突然の物音にびっくりする。
- 103. 人の声があるとそちらを向く。
- 1101. あやすと顔を見て笑う。
- 106. 自分の名前を呼ばれると、そちらを見る。
- 1105. 母親が手を差し出すと、喜んで自ら身体をのり出す。
- 110. 話しかけられるのを喜ぶようになり、にっこりして聞いている。
- 307. 話しかけたり、歌ったりしてあげると声を出す。
- 405. 話さばばで促すだけで動作をする（「バイバイは」「イナイナイパーは」などに対して）。
- 602. 「ブーブーどこ」「ボールどこ」「パパどこ」などと聞くとそちらの方を探して見たり、指さしたりする。
- 201. 「だめ」と言うと言と手を引っ込める。
- 202. 大人が手を差し出して、「ちょうだい」と言うときくれる。
- 204. 簡単な言いつけ（「新聞を持ってきて」など）に従う。
- 207. 頼むと片づけを一緒に手伝う。
- 210. 「おいで、おいで」と言うとき近寄ってくる。
- 1005. 自分の名前を母親などの親しい人に呼ばれると「ハイ」と返事する。
- 211. 「～は誰のもの」と聞くと答える。
- 208. 無関係な二つの指示（お茶わんを置いてからパパを呼んできて」など）に従う。
- 1009. 絵を見せて「これ何しているの？」と聞くと、「～してんの」と答える。
- 1021. 幼稚園などで、自分の名前を呼ばれると返事をする。

模倣

- 402. バイバイをやって見せるとまねてやる（アバアバ、イナイナイパー、ニギニギなどでもよい）。
- 403. 大人のやることをやりたがる（字を書く、くしを使うなど）。
- 406. 顔の表情を不正確でもまねする（舌を出す、口をバクバクする、口をすぼめるなど）。
- 401. はっきりした発音は使わないが、親の顔を見ながら話さばの調子をまねる。
- 407. 父、母のしぐさのまねをする。
- 404. 大人の出す音（せき、舌うちなど）や身近に聞こえてくる音（サイレン、ドアの閉まる音など）をすぐ後にまねて繰り返す。
- 409. 大人の言った単語をそのまままねて繰り返す。
- 411. 身近な大人とまねごとの真似をする。
- 412. 周りの子どもをまねて一緒にする。
- 408. テレビを見て、歌手などの真似をする。
- 410. よく知っている二語文、三語文をまねする（「パパ・バイバイ」「ボール・ナイナイ」など）。
- 414. テレビの主人公や動物のまねをして遊ぶ。

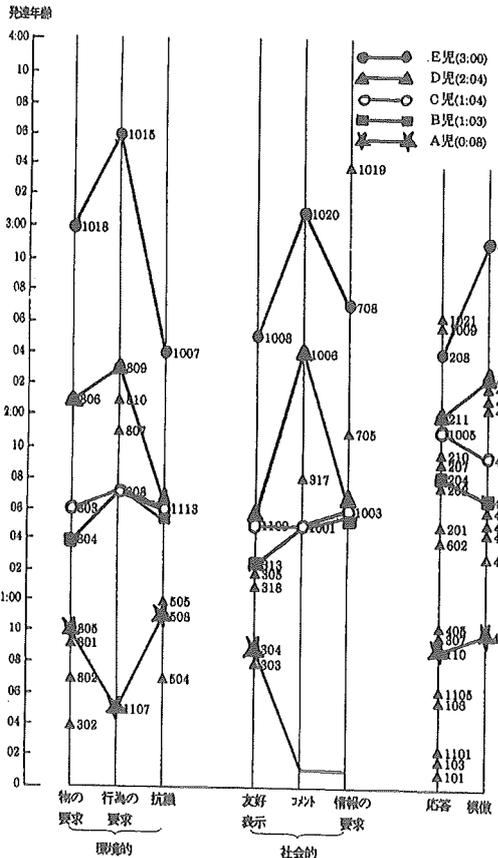


Fig. 1 健常児における伝達行動発達のプロフィール

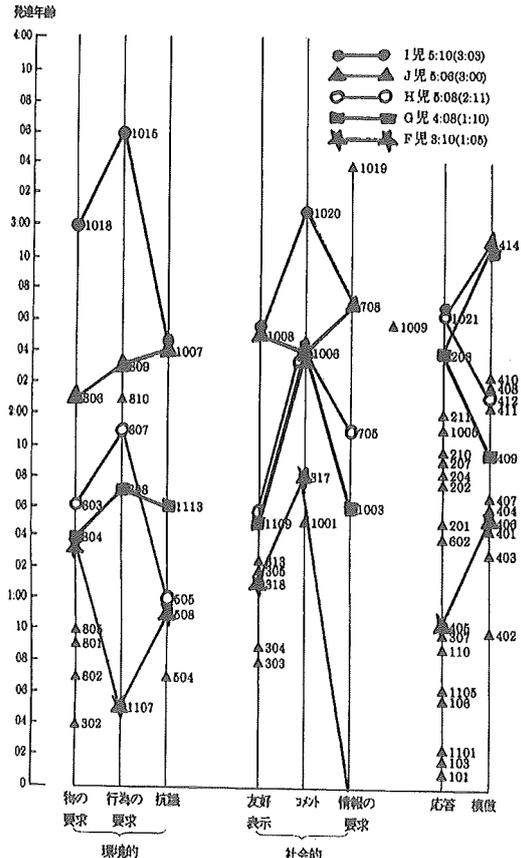


Fig. 2 精神遅滞児における伝達行動発達のプロフィール

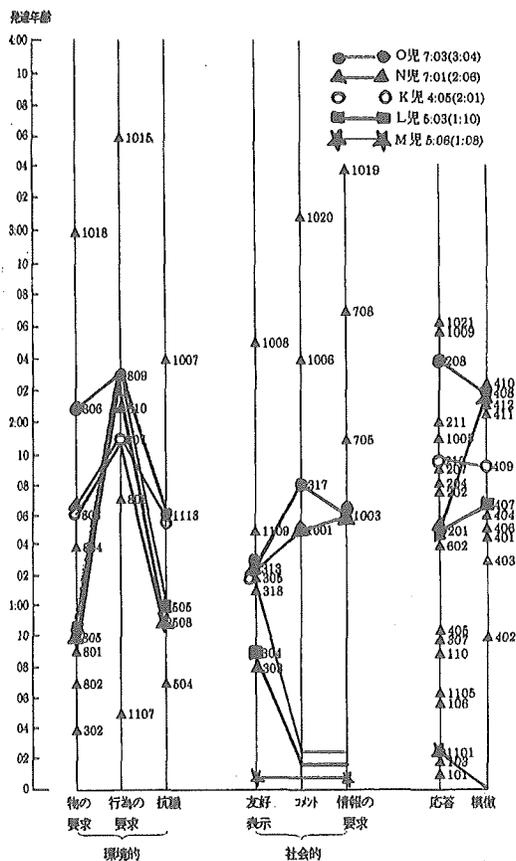


Fig. 1 自閉症児における伝達行動発達のプロフィール

引用文献

1) Snyder, L. (1978) : Communicative and cognitive abilities and disabilities in the sensorimotor period. Merrill-Palmar Quarterly 24, 161-180.

2) Rapin, I., & Allen, D.A. (1983) : Developmental language disorders : Nosologic consideration. In Kirk, U (Ed) Neuropsychology of Language. Reading and Spelling. Academic Press. 155-184.

3) 大井 学 (1983) : 早期の語用論的発達とその障害についての覚書. 愛媛大学教育学部障害児教育研究室紀要, 7号, 41-53.

4) Dore, J. (1975) : Holophrase speech acts and language universals. Journal of Child Language. 2, 21-40.

5) Bates, E. (1979) : The emergence of symbols :

cognition and communication infancy. Academic Press.

6) Wetherby, A.M., & Prutting, C. (1984) : Profiles of communicative and cognitive-social abilities in autistic children. J. Spee. Hear. Res., 27, 364-377.

7) 韓国版「ことばのようす」(1990) ; 日本の「ことばのようす」を韓国語で訳したもの.

8) 小林重雄・前川久男 (1988) ; ことばのようす. 昭和62年度厚生省心身障害研究「障害幼児を中心とした治療教育法の開発と統合化に関する研究」報告書.

9) 佐竹真次・木原利憲・小林重雄 (1987) : 自閉症児における語用論的伝達機能の評価. 日本特殊教育学会第25回大会発表論文集, 530-531.

10) 黒田吉孝 (1987) : 話し言葉をもたないある自閉症児のコミュニケーション活動の発達と障害の研究. 特殊教育学研究, 25(2), 61-67.

11) 佐竹真次・小林重雄 (1989) : 自閉症児における語用論的伝達機能の発達に関する研究. 特殊教育学研究, 26(4), 1-10.

12) 山田洋子 (1987) : ことばの前のことば. 新曜社.

## Developed feature of each transmission function in Mental Retardation children and autistic children

Lee Hyun Ok

### Abstract

Is the examination of the communications function necessary, is bias of a peculiar transmission function to the autism child especially caused in the background of what cause because the feature of autism child's communication disorder is elucidated more, and it seems that the examination is also necessary.

Moreover, not only the appearance frequency of the transmission function but also the developmental stage by the language development inspection is thought as a standard even though it is possible as for the evaluation of the interactive transmission function in the child.

And, developed feature of each transmission function in a healthy baby, the mental retardation children, and the autistic children is analyzed and examined in this research.

An environmental transmission functions of the demand of the thing, the demand of the act, and the protest, etc. and the friendship displays of social transmission functions would be shown in months of six after one's birth and it was shown to appear in a result healthy baby.

Afterwards, it was suggested that the comment joined, and the demand of information appear in addition as a social transmission function.

Especially, it was shown that the demand of information was a function which appeared in a comment and a simultaneous period, and a more higher-order function in this research to stand on that.

**Key words :** Autistic children, language development, pragmatics, transmission function